

見直しませんか、わが家の防災対策

～ 第五回 ハザードマップ ～

愛岐ケ丘自治会
愛岐ケ丘防災士会

ハザードマップ…、よく耳にする言葉ですね。日本語で言えば、『災害予測地図』とも言うのでしょうか。主なものに、豪雨時の浸水や河川の氾濫・土砂崩れ、地震時の揺れや液状化などを予測したものがあります。可児市や岐阜県のホームページ（以下、「HP」と書きます。）には、様々なハザードマップが掲載されています。

例えば、可児市のHPからは次のようなハザードマップが入手できます。

ハザードマップの探し方

以下の順に開いて下さい。

可児市HPトップ ⇒ 暮らしの情報 ⇒ 防災・救急
⇒ 防災 ⇒ 災害に備えましょう ⇒ ハザードマップ

掲載されているハザードマップ

- 可児市洪水・土砂災害ハザードマップ
- 洪水浸水想定区域図・水害危険情報図（ページ内から国及び県 HP へリンク）
- 砂防指定地等の区域図（ページ内から県 HP へリンク）
- ぎふ山と川の危険箇所マップ
- ため池ハザードマップ
- 可児市地震防災マップ（揺れやすさマップ・液状化危険度マップ）
- 地域危険度マップ（建物全壊率）
- 可児市わが家のハザードマップ（愛岐ケ丘は作成されていません。）

インターネットが使用できる方は是非ご確認下さい。

* 「洪水・土砂災害ハザードマップ」は全戸に配布されていますが、紛失されていても大丈夫です。後述しますように、可児市春里地区センターや帷子地区センターで配布されています。

これらのうち、今回は次の主なハザードマップについてお話ししたいと思います。

1. 洪水(浸水)予想

愛岐ケ丘では、洪水については比較的安全と言えます。しかし、これで安心してはいけません。大切なのは、団地内ばかりではなく、日頃の生活圏ではどうなのかという事です。**通勤や通学、買い物などでいつも通る道に危険な所は有りませんか？**

ハザードマップで、日頃よく通る道の浸水の危険性を確認しておきましょう。そして、遠回りでも、浸水の恐れが少ない別のルートを予め考えておくことも大切です。冠水した道路では水の深さや水の中の様子などは分かりません。人や自転車はもちろんのこと自動車も、浸水した道路を安易に通行する事は避け、迂回するという判断が大切です。



2.土砂災害

愛岐ヶ丘にも土砂災害特別警戒区域がありますが、それは極一部の様です。油断は出来ませんが、心配は少ないと言えるかも知れません(『ぎふ山と川の危険箇所マップ』…前記のように、可児市のHPから検索出来ます。)

ただ、団地は法面(のりめん…斜面)で囲まれています。日頃から、法面の地割れや土留め壁の異常、法面の上端に接した道路アスファルト面の広がった亀裂、側溝と側溝の繋ぎ目の広がり…など、異常や変化はないか時々観察しましょう。このようなところ付近の法面は脆弱になっている恐れもあります。



側溝の掃除も大切です。

3.地震時の揺れやすさ

可児市の地震時の揺れやすさマップは、「阿寺断層による地震」、「東海・東南海連動地震」及び「直下型のM6.9の地震」を想定して作成されています。愛岐ヶ丘では最大で震度6弱の揺れが想定されていますが、阪神・淡路や熊本では専門家の想定を遥かに超える巨大地震が発生しています。予断を持たないようにしましょう。

6弱



○立っていることが困難になる。
○固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
○壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
○耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。





震度階級の解説
(気象庁HPへ)

出典：気象庁ホームページ (<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/jma-shindo-kaisetsu-pub.pdf>) から引用し、一部編集しました。

以上、今回はハザードマップについて紹介しましたが、ハザードマップは一定の仮定条件、前提条件の下で作成されています。そのことを理解した上で、これらの情報を防災や減災に活かしていきたいものです

一口メモ



- 洪水・土砂災害ハザードマップ
 - 可児市地震ハザードマップ
 - 地域危険度マップ(建物全壊率)
- などは、可児市の各地区センターでも配布されています。